

復職・子育て・介護支援を通じた地域医療確保への貢献が評価され、道の二十五年男女平等参画チャレンジ賞を受賞した。センターは十九年度



に文科省G.P.のため設立され、二十二年度からは大学組織として数多くの事業を手がける。①復職支援研修②キャリア支援③子育て・介護支援④病

男女平等参画チャレンジ賞を受賞した旭医大二輪草センター長

山本 明美氏



後時保育—の四部門体制で、女性だけでなく男性や、医師・看護師以外の人たちにも働きやすい環境を整備している。

復職支援研修は大学病院以外の潜在看護師にも門戸を開放しており、「大学でなければできない地域医療への貢献」と強調。学生の意識改革にも力を入れ、将来の仕事と家庭の両立について考える授

復職支援通じ地域医療貢献

業を二十二年度から開始した。学童期の育児支援として開催しているキッズスクールには多くの職員や学生がボランティアで参加し、大学全体で育児に携わっている。

「センター開設前は取り組みが遅れていたが、二十四年に東日本の大学病院で初めて『働きやすい病院』認証を受けることができ、全国から視察が集まるまでになった」と目を細める。今後は「センターの名を、大学の特色の一つとして定着させたい」と意気込む。

副センター長から二十五年四月就任。皮膚科学講座准教授。